

霧島市立医師会医療センター

院長からのメッセージ



東京オリンピック2020が始まり、無観客が基本ながら日本代表選手が活躍する報道により、コロナ関係の話題が少し下火に感じられます。当センターのコロナ準備病床は県の指示により7月半ばから20床から6床へと戻していますが、オリンピック関係者の国際・国内移動に伴い患者数は増加に転じることが予測されます。アスリートの活躍を見て元気をもらえること、コロナ対策の継続で悪い意味での慣れができることの2つの事象が日本を舞台に戦っている気がします。オリンピックの報道には医療関係もたくさん含まれます。水泳の池江選手の白血病は大きく報じられましたし、選手の怪我との戦いの裏には数多くの医療関係者の存在があります。私も医療従事者は市民の方々が社会で活躍するため影のサポーターです。本号で取り上げた熱中症のように予防が第一ですので、ご家族の皆様、職場の同僚で注意しあって発症を未然に防いでいただき、医療者が表に出ることがないようにお願いします。

8月後半には医療と関係が深いパラリンピック開催です。このままの盛り上がりが続くことを祈念します。

熱中症に気を付けて！

総務省消防庁の報告では、R2年6月～9月は全国で64,869人の方が熱中症で救急搬送され、112名が亡くなられています。都道府県別人口10万人当たりの熱中症による救急搬送人員は、**鹿児島県が最も多く(80.6人)**、次いで熊本県(73.4人)、鳥取県(72.4人)の順となっています。**発生場所別では住居が最も多く(43.4%)**、次いで道路(17.4%)、屋外・野外仕事場(13.4%)となっており、**年齢別では65歳以上の高齢者が最多(57.9%)**で、**月別では8月が最多**です。

これまで国は気象庁の**高温注意情報**や環境省の**暑さ指数(WBGT)**等によって国民に熱中症の注意を呼びかけてきましたが、令和3年度からは、環境省と気象庁が連携した、**熱中症警戒アラート**が配信されています。このアラートが出された都道府県では**外出自粛**、**激しい運動の中止・制限**、**積極的な水分補給・休息**などが勧められています。

熱中症の予防法



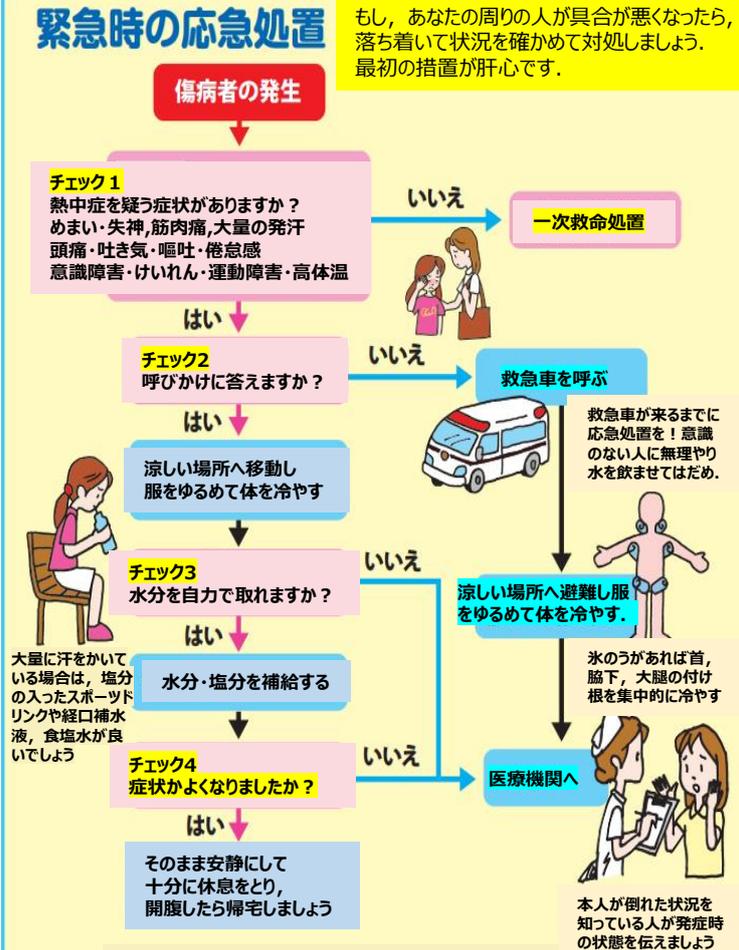
熱中症の分類

熱中症Ⅰ度(応急処置と見守り→改善しなければ病院へ)
熱失神(めまい、立ちくらみ、顔面蒼白、瞬間的な失神など)：熱失神は、皮膚の表面を通る血管が拡張すると急に血圧が低下し、脳への血流が悪化すると起こります。
熱けいれん(筋肉痛、こむら返り、筋肉のけいれんなど)：大量に汗をかくと水分とともに塩分が奪われ、血液のナトリウム濃度が低下することで手足などに痛みやけいれんが生じます。

熱中症Ⅱ度(病院へ)
熱疲労(頭痛、吐き気、嘔吐、全身倦怠感、集中力低下など)：大量に汗をかいて体の水分が奪われ、脱水状態に陥った症状です。

熱中症Ⅲ度(入院)
熱射病(意識障害・けいれん、運動障害、高体温、過呼吸など)：熱失神・熱けいれん・熱疲労がより進行し、呼びかけに反応しなくなるなど中枢機能に異常をきたします。緊急に冷却療法を行う必要があり、生命に関わる極めて危険な状態です。

緊急時の応急処置



認定看護師・特定医療行為認定看護師のご紹介

当院には、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する者として、看護協会が認定した、11分野15名の認定看護師がおります。また38種類の医療行為について、医師の具体的な指示が出る前に自らで行える特定行為看護師が3名おります。今回は**認知症ケア認定看護師**をご紹介します。

認知症ケア認定看護師 永山リサ

認知症認定看護師とは、認知症看護に関する豊富な知識と高い技術を持ち、認知症患者やその家族に対しケアを行う看護師を指します。また、一般の看護師へ、認知症に関する知識や技術の指導を行う立場です。



認定看護師を目指したきっかけ

認知症看護認定看護師を目指したきっかけは、家族の認知症介護と認知症をもつ患者さんとの関わりが多く、認知症への理解を深め安心して療養生活を送ることができるようにサポートしたいと思い取得しました。

今後の目標

認知症をもつ患者さんやご家族の「その人らしさ」を大切に、退院後の生活を見据えながら少しでも安心して療養生活を送ることができるようにサポートしたいと思います。

院内チーム医療のご紹介 今回は「Cancer Board」の核となる化学療法委員会(チーム)



Cancer Board(カンサーボード=がんの評議委員会)とは、手術、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師や、その他の専門医師及び医療スタッフ等が参集し、がん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスのことをいいます(厚労省)。

当院では東京の癌研有明病院で研修した医師を核とする化学療法委員会(チーム)のメンバーを中心に、外科医・内科医・看護師・薬剤師・心理師・栄養士・医事課事務などが集まり、2週に1回開催しています。

「化学療法チーム」の紹介：日本人が一生のうちがんと診断される確率(2017年データ)は、男女共に2人に1人であり、がん死亡する確率(2019年データ)は、男性は4人に1人、女性では6人に1人となっています。化学療法とは、抗がん剤を用いて癌を治療することを言います。抗がん剤には、癌細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防いだりする効果があります。手術治療や放射線治療が、癌に対する直接的・局所的な治療であるのに対し、化学療法では、より広い範囲に治療の効果が及ぶことが期待できます。がん化学療法は日進月歩する中で、最新の知識・技術を身につけるように学習会を行い、初めて使う薬に関しては、患者様に合った薬、量、治療の流れのかなど、十分検討し、他職種でコンセンサスが得られた上で、抗がん剤を使用していく必要があります。それを担っているのが「化学療法チーム」です。化学療法チームは右上記のメンバーで構成され、先にご紹介した化学療法に関する事項を「化学療法委員会」で協議し、その内容を、がんに関わるすべての医療者で共有する会議である「Cancer Board」に諮り、情報を共有、方針の承認を得たのち実行に移します。化学療法委員会・Cancer Boardは2週間に1回開催されています。1回に10~15名の患者様のがん化学療法の治療内容について多職種で検討を行っており、多くの患者様にガイドラインに沿って最新かつ適切ながん医療を安全に提供できるように日々活動しています。

新病院建設進行中 現在実施設計(ECI方式)に向けて工事会社の選定作業中で、10月には決定予定です。

職員募集

看護師、看護助手各2-3名、薬剤師1名、医療クラーク2-3名を募集中('21年8月1日現在)詳しくは病院HPをご覧くださいか、事務長、事務次長、または総務課課長補佐にご相談下さい
☎ 0995-42-1171, FAX 0995-42-2158

編集後記

来月9/24は西郷隆盛が城山で自刃した日。
自養-精神-, 不-恨-天-, 不-咎-人。
(自ら精神を養いて、天をうらみず、人をとがめず)
不平不満が多い中、肝に銘じたい言葉です。